

## 2013年 中国土木水利工程学会(台湾)年次大会参加報告

中国土木水利工程学会（以下 CICHE;台湾の土木学会に相当）の年次大会（2013年11月22日）に土木学会の代表として参加しました。会場は台北市の台湾科技大学でした。CICHEは土木学会との提携歴が最も長い海外学会であり、活発な交流を行ってきました。今回、土木学会からの参加者は、土木学会顧問（前会長）小野武彦氏および中山かおり氏（清水建設）、国際センター次長山川朝生氏（日本工営）、ラウンドテーブル・ミーティング発表者として曾根真理氏（国土交通省 国土技術政策総合研究所 国際研究推進室長）、国際交流グループ台湾担当のEllen Wang氏（近代設計）と大内教授（高知工科大学）の6名でした。



台湾グループリーダー  
大内 雅博

CICHEの年次大会は土木学会の総会と全国大会を合わせたようなものであり、毎年11月に1日間の日程で開催されています。午前中に総会・特別講演・セレモニー、午後に研究討論会が行われるのが通例であり、今回も例年同様の日程で行われました。

総会では小野武彦顧問が「2011年東日本大震災からの教訓」と題して講演をしました。東日本大震災被害に対する台湾からの支援への感謝を述べ、創立百周年を迎える土木学会の最近の取り組みと記念行事について説明をしました（写真-1）。今回はCICHEの会長交代年であり、陳希舜前会長（前・台湾科技大学長、現・公共建設大臣）から呂良正新会長（台湾大学教授）への引継ぎのセレモニーが行われました（写真-2）。



写真1：総会で講演する小野武彦顧問



写真2：陳希舜前会長(右)から呂良正新会長(左)への引継ぎ



写真3：曾根真理氏による講演

CICHE年次大会では各研究部門に分かれた募集による研究発表会はなく、専ら土木全体に関わるテーマに関する研究討論会が複数同時並行で行われています。そのうちの1つがInternational Round Table Meetingであり、台湾外からの講演者も招いて英語で開催されました。テーマは「持続的な技術革新—低炭素デザインとエコシティ」で、台湾内から3つ、韓国から1つ、そして日本からは曾根真理氏が「社会基盤のためのライフサイクルアセスメントの方法論の開発」と題して講演をしました（写真-3）。曾根氏の講演は他の参加者から高い評価を得ることができ、改めて日本の研究水準の高さを示すことができました。